

## KRC WEB REPORT

## 徒然想

新しい何かを生み出すために、アイデアの断片をキャッチボールしながら徐々に形を見つけていく瞬間は、まさに生きている喜びに通じるものだと思います。それは少しだけ、長距離ランナーがゴールに向かって走り続けていくのと似ている気がします。私も時々自転車に乗って100km程度の距離を走る事がありますが、80kmを越えたあたりから疲労や大変さよりも再び楽しさの方が上回ります。変わり行く景色の中で風を切って走ると、雲の切れ間から差し込む光に出会う事もあります。世知辛くともこの世が生きるに値するものだと、改めて思い出す瞬間です。新しいアイデアが、そのような光を目指すものならば、それはきっと誰かの役に立つものだと思っています。本年も、どうぞよろしくお願ひいたします。

## TECHNICAL TOPICS 今月の技術情報

## 3D ハンディスキャナ (REVscan) による海外遺跡調査 ～古代ギリシャ建築調査～

2011年8月、ギリシャ・アテネのアクロポリスにあるアウグストゥス神殿において、「都城高専」と「熊本大学」が共同で実測調査を行いました。当社はこの調査で、最新のレーザ計測機器を用いた計測支援を行いました。

神殿のキャピタル(柱頭)や装飾、奥行きを持った曲面部材などを手実測で図化することは労力・時間を要し、相当なスキルも必要とします。そこで、本調査では複雑な形状を容易に図化するために、まず3D ハンディスキャナ (REVscan) を用いて計測を行いました。REVscan で得られたサーフェスデータの正面・側面投影図を作成することで、実測用の下図(図5)を作成しました。これにより、通常の手実測では図化に1週間以上かかるものを3～4日で図化が完了しました。また、従来であれば複数人で実測を行うため、精度にばらつきが発生していましたが、下図を作成することでより正確な図化が可能となりました。

さらに、実験的な試みとして、曲面部材の一部分から円弧の半径を求めました。様々な構成部材を計測することで、全体像の復元案を作成することも可能となります。詳細はぜひHPをご覧ください。

<http://www.krcnet.co.jp/works/works0671.html>

※本調査は、「都城高等専門学校アクロポリス建築調査団」と「熊本大学古代ギリシア建築調査団アクロポリス建築調査班」が共同で行ったものであり、2011年度日本建築学会九州支部研究報告集計画系プログラムの歴史・意匠に掲載予定です。

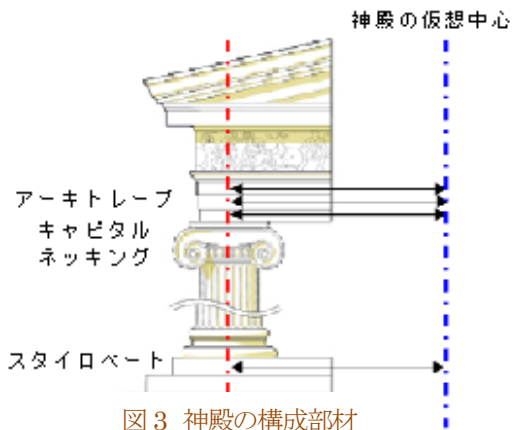


図3 神殿の構成部材

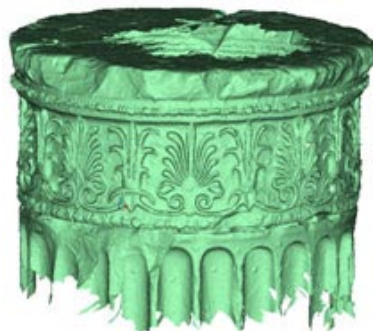


図4 ネックング計測データ



図1 現地計測ヤード



図2 REVscan を用いた計測状況

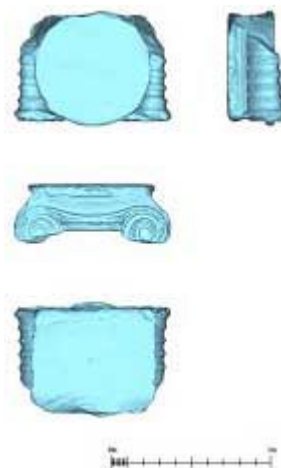


図5 作成した下図(一部)

(株)計測リサーチコンサルタントへのお問い合わせ先: [krc@krcnet.co.jp](mailto:krc@krcnet.co.jp) HP: <http://www.krcnet.co.jp/contact/contact.htm>